

夢膨らむ「吉部千本桜」

旧船木鉄道沿いに住民ら

戦時中に廃線となつた鉄道の敷地に桜並木を整備する「吉部千本桜・桃源郷計画」が25

日、宇部市吉部地区の旧船木鉄道敷であり、地元住民や大学生、ライオンズクラブ、NP

10人が参加して、苗木55本を植樹した。ここのほかに、県道や公園、集会所などにも152本を植え、数年後

の春には美しい花がまぎらひなく咲き誇る。整備事業は、地域資源を生かして新しいコミュニティづくり、

地域振興に取り組んでいる「夢ゆめクラブ吉部の郷(さと)」(大田壮助代表)が策定した「吉部の夢プラン」

の一つ。苗木は瀬戸内オリブ基金の助成で購入。楠ライオンズクラブも昨年の認証30周年記念事業として、桜並木の途中に駅舎風のあずまやを建てる。

とを願っている」と語った。式典、作業には、オリブ基金の上川正事務局長も参加。時間をかけて、丁寧にこられた計画。この縁によつて、地域が元気になり、皆さんの笑顔が広がれば」と期待を寄せた。県が創設した「中山間地域元気創出若者活動支援事業」に指定された宇部フロンティア大と同短大部の学生たちも積極的に作業に取り組んだ。



植樹のお手本を見学する参加者(吉部で)

「住民の大きな夢を実現するため環境を整えてきた。桜が満開になることを想像しながら心を込めて植えたい。この場所が人々の希望と癒やしの場になるこ

あり、吉部ふれあいセンター裏から吉部八幡宮参道までの道に約100本程度の桜を植える予定。(古重)